

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の  
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを  
考える

## 生命誌の広場

### テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

### あなたの考えをお聞かせください

### ご意見はこちらから

### 最新のお返事

- 2019年10月02日  
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日  
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日  
[原爆について](#)
- 2019年09月05日  
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日  
[この夏一番元気だったものは？](#)

### 最新のご意見

- 2019年09月27日  
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日  
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日  
[原爆について](#)
- 2019年09月05日  
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日  
[この夏一番元気だったものは？](#)

### 過去の書き込み

2019年 10月  
GO

### みなさんからのご意見

#### その他

#### 人外の者達の気持ち

投稿日：2014.09.28 ニックネーム：hon no mushi

御嶽山が噴火しました…突然のことにびっくりですが、上空からのその光景をニュースで目にし、我が家ではヨモツヒラサカの問題になりました…

…実は数日前、旧約聖書ヨセフの夢ではないですが二日にわたって不思議な夢を見まして…

第一日目は、ぎらぎらと日が照りつける人気のない岩石沙漠の荒野に、物流倉庫のような巨大で平べったい建物があり、庇の下がバスターミナルのようになっていて、一人でその陰から遠くを見ている…

二日目は…三日三晩バスに揺られて、乗客の皆が（恐らくその建物の中の）教室のような所に案内され、各人の机の上には弁当箱が置いてあって、席に着き開いてみると、白いやんわりとした丸っこいプリンのようなものが幾つか入っており、皆食べ始めるのですが、私だけはひとり外に呼ばれて…帰ってきてみると誰もおらず、弁当もなくなって…（ここで場面が切り替わって）…散らかった体育倉庫のような部屋の床に、ゴワゴワした毛布を頭から被って、空腹に寝息も立てずに横たわって寝ている自分がおり…そのとき急にドアが開き、砂漠の隊商のような服装をした戦闘員が一人、銃を持って押し入ってきて、それでも私には気付かなくて…そこで私は悟ってしまったのです！教室にいて弁当を食べた他の人達は、皆この人の仲間に殺されてしまったのだと…

…何かしら不穏でリアルだったこの夢を、一昨日書き記そうとしましたがパソコンがいきなりダウンしてしまい、まあいいか…と諦めていたのですが、今日になってふと変な考えが頭の中をよぎり…

…そのお弁当を食べていた人達、食べようとしていた「私」は実は…お弁当の中身が…ヒトの脳味噌だったとしたら…「私」は人間なのか？という疑問が噴出し、大変に頭の中が混乱し、まるで今まであった常識がくるくるくる別の世界のもののように、手の届かない所で回り出しました…

そしてなんとなくわかりました、ヨモツヒラサカでイザナギにみられたイザナミの気持ち…実はヒトでいたかったのに、明らかに怪物だという顔をされ、自分の姿を認めざるを得なくなったときの悔しさ、悲しさ、ごった返す感情の渦…そして決して元の世界に戻れない、別世界の生き物になってしまった感覚が…

…熊楠の最期も相当寂しいものだったようですが…

#### その他

#### ありがとうございました。

投稿日：2014.09.26 ニックネーム：am

今日初めて生命誌研究館にお伺いしました。

生物について深く考えさせていただける素晴らしい場所です。

特に橋本先生のお話はとても興味深いものでした。

人間は、DNAの存在意義である生存と繁栄のために行動するのであるとする

新着情報

[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

と、人が好戦的であることも、平和主義であることどちらも自然な行動なのかとも思えます。

多くのことを考える機会を与えていただいたことに感謝します。

ありがとうございました。  
もっと橋本先生とお話しさせていただきたかったです。

## お返事

投稿日：2014.10.01 名前：橋本主税 研究員

お便りを拝見しました。  
短い時間でしたので細かい説明を省いて流れだけをお話いたしました。  
ですから、申し上げたいことが伝わらないのだろうと思っていました。  
しかし、それが逆に奏効してam様の想像力をかき立てたのかもしれないね。  
生きものの理屈だけを科学として考えるのではなく、  
生きていることの意味を考えることも面白いと思っています。  
また機会がございましたらいろいろとお話をさせて下さい。  
  
このたびはありがとうございました。

## その他

### 案内スタッフの皆さん、ありがとうございます

投稿日：2014.09.20 名前：杉山昭夫

新しい案内スタッフの森さんが抱負を書かれていました。そこで、昨年おじゃましたときのことを書かせていただきます。昨年11月に生命誌研究館を初めて訪れました。その時案内していただいたのは案内スタッフの斉藤さんです。生物や生命研究に全くの素人の私は、初歩的な質問や展示を見ての感想しか言えなかったのですが、気持ちよく寄り添ってくださいました。博物館などにある学芸員と違って、案内を専門の仕事としていない親しみやすさがあり、見学者と同じ目線で、雑談も交えながら親切に説明してもらいました。展示そのものもとても工夫されていて魅力的でしたが、案内スタッフに直接、じっくりと説明してもらうことも研究館見学の大きな魅力です。この1年間、中村先生の書かれた本や生命誌研究館のホームページなどを通して少しずつ理解を深めてきました。また見学に行った時は、生命誌の楽しいお話をたくさん聞かせてください。

## お返事

投稿日：2014.09.22 名前：中村桂子館長

案内スタッフの魅力を書いて下さってありがとうございます。いつもくり返していますが、研究館は科学を説明するところではなく、科学を通して生きていることのすばらしさを感じ、その気持ちを表現する場です。案内スタッフもその中で大事な役割を果たしています。そこを理解して下さって館を楽しんでいただけてありがたく思います。  
できるだけ大勢の方にいらしていただき、この感覚を味わっていただきたいと願っています。

## その他

### 機械には予測不能でも、あるひとには「みえて」しまうもの

投稿日：2014.09.19 ニックネーム：hon no mushi

つまらない投稿を続けてしまいましたが、悪しからず…

昨日無理をして、時代背景を考えるのが難儀だった『アドルフに告ぐ』を読み終えました。最後の展開は、巫女のように現在を見越しているような手塚治虫さんの先見の明が冴えわたっていて…

それと、これも醸し出す雰囲気複雑怪奇な、水木さんの熊楠の本に面白い箇所がありまして、少し引用致します…

…おめえ考えてもみるよ 宇宙が創生されて 生命というものがレンメンとつながっていればこそ我々は存在するのだ この何億年の間一度もとぎれることなくつづいとるのだ とにかく一度でも切れたら我々はない これほど不思議なことはないよ… これ即ち“宇宙の力”だ …また我々の脳みその中にある“無意識” これだっておめえ はかり知れない宇宙の謎がかくされているのだ

… 理性という固い外側の中には 我々で分らんものがたくさんかくされている…

…そこからヒントを得たのですが、（これは以前申し上げた、虹色の雲の所を出した喩えであるストローをもう一度…今度は細い縦縞が何本も入っていて、断面の円周上に点が散在しているように見えるもの、その縞はうねったり他と交差したり内側に潜り込んだりするもので）幾つかの前提条件をそれらの点々と仮に見做して、そこから雲のように物事が展開・成長して新たな結果を生み、それを足場にしてさらに事態は芽生え展開していくのですが、その要因・要素となる点の数は無数にあって過去から未来へ引き継がれ、消えたように見えても何代か後にはまた姿を現すものもあり、機械を以てしても一つ残らず全てを網羅することは不可能…

…また、その折々の断面は生命誌マンダラのようなでもあり、どこかの階層の何者かが色々タグを組んで仕掛け合い、うつりゆく次の段階のどこに影響を与えるかはわからない…

…でも、わかってしまうひともいる…のは摩訶不思議



## その他

### そして私も…時間のかかる道を選んだ

投稿日：2014.09.16 ニックネーム：hon no mushi

投稿を続けて重ね…すみません

一昨日、NHK特番で立花隆さんの足取りを追った『臨死体験』をつい見ました。その中で、夢と死と神秘体験には、爬虫類にもある脳の辺縁系という部分に関連しているとありました。

…私は夢を見るとき「潜る」という表現を使うことがありますが、ぼこぼこともぐって、朝起きると現実の世界に引き戻されるという感じです。ただ、夢に見たことを覚えていて、それを文章や絵というモジュールの塊りに起こし相手に伝えられたとしても、相手がそれに見合った相同のモジュールを持っていないとまよく伝わらない…ようです。しかしここまで起こしてしまうと何度でも再現可能になるので、話を聞いてくれたり理解してくれる人を待ち望むことができます。

…そこで思い出したのが、かつて中村先生がインタビューされたジル・テイラー博士です。あの方も（印象的なその特番の内容からすると）壮絶な臨死体験をされていましたね。…ただ、彼女のすぐそばには魅力ある数学者がおられて、それは南方熊楠も同じですね。…変わった数学者がそばにいと、日常では思い及ばぬ心の奥の底の方から、思いがけないスループスがひょいと出てくるのがあって、かなり面白い不可思議な展開をすることがあるようです…

…私も一昨日変な夢をみまして…ピラミッドの玄室につながるような地下鉄のプラットフォームのような所に、桃色の生肉のような切れ端が多数、壁ぎわの床辺を浮遊しているような状況で、私を含め幾人かが何かを恐れてきよるきよると様子を窺いながら暮らしていて…底の方からどやどやと人が上がってきたのを感じるとなぜか皆ホッとして、明るい地上部を目指して階段を上ってゆく…というリアルな夢でしたが…



## その他

### ほんとに補足です…

投稿日：2014.09.14 ニックネーム：hon no mushi

昨日、聖書から、異形の生き物のイメージをお伝えしましたが、何気なく水木しげるさんの描いた『猫楠—南方熊楠の生涯』（角川ソフィア文庫）を開いてみたら、熊楠は聖書の知識もものすごい持っていて、また、その変人・奇人・怪人ぶりには圧倒されました…

あと、今朝開いた朝日新聞のいつもは軽く目を通すだけの書評欄には、なかなか読み応えのありそうな本が紹介されていて（ほんとにこんなことを申すのは何ですが）、特にアダム・スミスに関する記事が気にかかりました。…ので一部引用したいと思います。

『アダム・スミスとその時代』（ニコラス・フィリップソン著）への書評から…スミスは経済学の父と一般的にいわれるが、それはほんの一面を表しているにすぎない。彼が生涯をかけて成し遂げようとしたのは「人間の本性と歴史

を観察することで、真の人間学を創り出すこと」にあった。だから、彼の研究は修辞学や法学、倫理学、天文学など広範囲に及んでいる。

…スミスは「人間本性を学ぶ者」には「社交性の原理の諸相として」の修辞学と「社会の維持に欠かせない伝達の原理として」の言語や文体を扱って欲しいと考え、「『道徳感情論』においては道徳感情の交換される様を、『国富論』においては財やサービスが交換される様を」説得の諸相として描くような「新しい言語論」を用意していた…

…だが、後継者たちは経済学だけを継承し、彼の偉業を矮小化した。「人間学者」スミスは『国富論』で「豊かさの進歩は分業の程度による」と書き、『法学講義』では「低価格は豊かさの必然的結果」だとした。分業が進み、資本ストックも豊富な日本…現政権は異次元のインフレ政策をとり、反スミスの急先鋒となっている

…以上です（熊楠の話は読み始めですが、天地がひっくり返るような、夜と昼が入れ替わるような、気のおけない壮大な感じがあります…）

## お返事

投稿日：2014.09.19 名前：中村桂子館長

南方熊楠はさまざまな面を持っていて面白いですね。とにかく大きな人だと私も思い、関心を持っています。

## 季刊「生命誌」

### 死にそびれ古傷いたわる彼岸花…かな

投稿日：2014.09.13 ニックネーム：hon no mushi

手元に届いたBRHカードを開き、少し伺いました。これからWEBでじっくり読んでいきますが、古事記と生命誌の類似点には驚きました…今回は私が見聞きしたキリスト教聖書関連の視点からその会合の場に立ち会いたく…

（レモンの木にナガサキアゲハが産卵に来たり、緑の丸いクモが円い網を後ろ足で器用に張っているのを見ましたが）場合によってオスを生んでその子と交わる単為生殖のアブラムシやナメクジが、表裏一体になった壺の内外を逍遙するごとく、渾然一体となったイメージが浮かんできたので…それは付録シリーズのトカゲと恐竜と鳥の類似性にも関連して…

以前、アキレスとの兼ね合いで6枚羽の天使を挙げましたが、現在はどこの先進国でもかなりの負債を抱えていて、まるで膝上まで油に浸かった田んぼの中を歩いているようなもの…そこにはグスコブドリの話のように稲が沢山植えられており、掻き分けて進んでいくのですが、ある時突然イナゴの大群に襲われて壊滅的被害に…でもそんな自然災害よりもっと恐ろしいのは…

ふと前を見ると、男の人が立っていて、胸の辺りから何やら生えてきた…そう、それはアダムで、両胸から各々生えてきたのはイヴなのです…右胸の肋骨から出来た方は、右足首がアダムの右膝と、左太ももがアダムの腰と一体化し、その先は潜り込んで無く、左側のイヴはその対称形です。しかしアダムはその重みに耐えきれず、のけぞりながら、両腕は鳥の翼に、両脚は恐竜の足に変わってゆくのです…そして更に、次の列の肋骨がイヴに変わる時に、その前の者の外側の手が羽に変わりつつ…その全ての頭には、万物の霊長を誇るかのように王冠がのり…

その異形の生物が、空から、消えることのない火のついた石つぶてを降らせるのです…爆発した原子炉のかけらのように…

（ヨハネが夢で見たのを記した黙示録…私はアンジェの大きなタペストリーで見ましたが…）

## 季刊「生命誌」

### 対話の続きを！

投稿日：2014.09.09 名前：杉山昭夫

生命誌82号が届きました。まばたきするサングラスに思わずニヤリとしてしまいました。さて、今回の赤坂さんとの対話を興味深く読ませていただきました。私自身が東北に住み3.11を体験したことで、赤坂さんの語ることばが実感を伴って迫ってきます。また、3.11以前から東北を歩き、今もフィールドワークとして東北、福島を歩き続けている人ならではの地に足の着いたお話に引き込まれました。対話の最後の方で赤坂さんが、「福島が変わっていくことは人

類の将来への一つのモデルとして提示できる」そういう議論を「筋金入りでやっています」と述べられていますが、覚悟が伺えます。まだまだ語り続けてほしいと思いました。生命誌と赤坂さんとで創りあげられる「明日の神話」がどのようなものになっていくのか、期待しています。

制作が始まった映画「生命誌を編む」、内容の紹介を読んだだけでもワクワクします。完成と劇場公開を楽しみにしています。

最後に、高槻での人形劇は残念ながら見ることはできませんでしたが、表現スタッフ日記で村田さんが書いた文章を読み、ご苦勞の一端を知ることができました。それにしても、中村先生がゴーシュ役で朗読をされていたとは！そのエネルギーにただただ驚くばかりです。

## お返事

投稿日：2014.09.10 名前：中村桂子館長

82号楽しんでいただきありがとうございます。赤坂さんが生命誌にとっても興味を示して下さったので、これから御一緒できること私も楽しみにしています。日本が変わるだろうという期待は裏切られ、面倒なことはイヤだ、お金が動けばよいという方向へ舵が切られてしまいましたから、とても大変ですが、楽しいことを探しながら生きることの大切さを忘れずに行こうと思います。ゴーシュもその一つです。

## お返事

投稿日：2014.09.10 名前：表現セクター 村田英克

表現スタッフ日記へのコメントをありがとうございます。映画「生命誌を編む」もコツコツ制作を進めています。その進捗についても、季刊生命誌やホームページで折に触れてご紹介していきます。よろしくお祈りします！

## その他

### 郷土の出で立ち（その2—水と風と…光と土と）

投稿日：2014.09.06 ニックネーム：hon no mushi

僭越ながら…申し上げます

西日本は豪雨被害が大きく心痛みますが、先日、朝日新聞の朝刊地元面の郷土記事で、水塚（みづか）という、土盛りした上に倉などを建てた河川氾濫時に備えた場所のことが書かれていました。案外何気なく身近な所にあるので気にも留めていなかったのですが、確か1月頃の同紙別刷り版で、柴山伏せ越しという、この地方特有の灌漑水路や河川など水の道の立体交差（川の下を川がくぐる、など）を扱ったコラムがあったのを思い出し、この近辺に限ってみても、水利用についての苦勞があるのを改めて感じました…

…そして実は昨晚から未明にかけて、まことに能天気なリアルで変わった夢を見まして…

何だか自分が、埼京線などの高架の上から東京の方を見つめている、そんな状況のなかで、突然、都心の方で直立に虹色の雲のようなものが、地面から物凄い速度で湧き立ってくるのです。…ストローを縦にしてその吸い口に切れ込みを入れた時のように、先端がラッパのようになるとまるまり、その内側から更にストローが伸びてきて、上端がまたくるくとまるまる…といった形状で成って行って、どんどんどんどん上の方に向かって成長しつつ伸び上がってゆくのです。しかもその表面は虹色に、エナメルのように光を浴びて輝いていて大変美しく…

## 季刊「生命誌」

### ペーパークラフトを展示

投稿日：2014.09.04 名前：長谷川源治

町内の納涼祭で子供科学実験コーナーへ今まで送っていただいたペーパークラフトを展示しました。空飛ぶ生き物大作戦、からくり古生物プロトスクスなど、説明しながら見て、触って、動かし子供たちは笑顔で楽しんでいました。特に、からくりプロトスクスは大人気です。小さな指で背中を押す口を開けると、その瞬間子供たちの顔は愛らしく喜びに満ちていました。夏休みの宿題や日記など一役出来たかと思えます。今後も是非、からくりペーパークラフトを企画していただければ幸いです、ありがとうございます。

## お返事

投稿日：2014.09.10 名前：中村桂子館長

とても有効に使っていただいて心から御礼申し上げます。プロトスクスは作るのに半日かかったよという手紙をくれた友人もいました。半日もかけて作ってくれたのがありがたいです。皆さんに活用していただけると私たちも嬉しいです、プロトスクスも喜こんでいると思います。

[▲ ページの先頭へ](#)

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [リンクポリシー](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館  
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.